

## 第 52 回日本医療薬学公開シンポジウム開催報告書

岡山大学病院薬剤部 千堂 年昭

第 52 回日本医療薬学公開シンポジウムを平成 25 年 12 月 7 日（土）、岡山国際交流センター 8 階イベントホールで開催した。平成 24 年 3 月 5 日に厚生労働省より告示が出され、同年 4 月より実施された「病棟薬剤業務実施加算」の新設は、病棟でチーム医療に貢献する薬剤師が診療報酬上評価された結果であり、医療において薬剤師が益々大きな力を発揮することの期待の表れである。本加算の算定要件に、「すべての病棟に入院中の患者」とあり、今まで薬剤師が関与し難かった病棟にも参画することが求められている。本シンポジウムでは、テーマを「医療チームの中で薬物療法への主体的な参画を目指して」とし、基調講演を 1 演題ならびに 4 名のシンポジストに、これまで薬剤師の参画が低かった病棟薬剤業務に焦点をあてご講演頂き、最後に総合討論を行った。

広島大学病院薬剤部の畝井浩子先生には、「薬剤業務の実践と薬剤部のマネジメント」と題して、病棟薬剤業務の標準化・効率化を行うために、病棟グループリーダーおよびリスクマネージャー・アシスタントを設け、相互支援の重要性を紹介いただいた。シンポジウムでは、愛媛大学医学部附属病院薬剤部の武市佳己先生に、「愛媛大学医学部附属病院における NICU 病棟での薬剤業務」について講演を頂き、NICU での業務を行うようになった経緯ならびに薬剤師に対する医療従事者からの期待について、業務内容ならびに薬剤師の介入成功例を交えて報告された。岡山大学病院薬剤部の江角 悟先生には、「精神科病棟における薬剤師業務」について講演を頂き、精神科病棟に介入するための取り組みについて報告された。九州大学病院薬剤部の村岡香代子先生には、「妊婦・授乳婦の薬物療法への薬剤師の関わり」について講演頂き、厚生労働省の事業に伴い“妊娠と薬外来”を設置し、その運用と評価ならびに乳汁移行に関する専門サイト“LactMed”を用いた臨床現場での有用性、さらに本領域の薬剤師に求められる役割が報告された。岐阜大学医学部附属病院薬剤部の鈴木昭夫先生には、「耳鼻科および口腔外科病棟における薬剤業務の展開とアウトカム」について講演頂き、モデル病棟における業務内容について薬剤師の専門性発揮の必要性について報告された。総合討論では、薬剤師がアウトカムを意識しながら業務に取り組み、エビデンスを創出できる薬剤師の育成が必要ではないかとの提言がなされた。

今回のシンポジウムは、204 名の参加者があり、県外からも 72 名来られ、本テーマに対する参加者の関心の高さが伺えた。また、その内訳は病院の薬剤師が 189 名、薬局薬剤師が 2 名、大学教員・学生が 10 名、その他が 3 名であった。

最後に、シンポジウム開催にあたって企画から運営まで多大な労を執って頂いた岡山県薬剤師会の方々、岡山県病院薬剤師会の方々、さらに終始懇切丁寧にご対応頂いた日本医療薬学会事務局の方々に心より感謝申し上げます。